



## 学校公開デーを開催しました

2月13日(木)学校公開デーを開催しました。保護者の皆様、地域の方、小学校の先生方を含めおよそ70名あまりの方にお越しいただきました。お忙し中ありがとうございました。6限目には、2年生が昨年12月から取り組んできた広島への修学旅行に向けた平和学習の発表がありました。班ごとに新聞やパワーポイントを使ったプレゼンテーションづくりに取り組み、当日は各学級の代表班によるプレゼンテーションが行われました。どの発表も見る人を意識したとてもわかりやすいものでした。参観していただいた小学校の先生からも、堂々と発表する姿やその内容はもちろんのこと、新聞についてもたくさんのお褒めの言葉をいただきました。なお、公開デーに関わって「事前に全学級の時間割がほしかった」という声をいただきました。ご不便をおかけし申し訳ありませんでした。日課等については「毎日のお知らせ」として学校のHPに掲載しておりますので、よろしければこちらの方もご利用ください。



## 問題はつくられる

「子どもに伝える言葉の影響」について考えてみたいと思います。

次に紹介する話は、森俊夫・黒沢幸子の共著「解決志向ブリーフセラピー」で紹介されている事例です。「問題がどのようにつくられるのか」ということを説明するために、少し誇張された表現(作り話)となっていますので、それを踏まえてお読みください。



問題がどうやってつくられるか、そのプロセスをお話しましょう。

中学3年生の女の子と母親が、ある日、夕食をとっていました。このお母さんは、とても観察力の鋭いお母さんです。よく娘のことを観察しています。お母さんの観察によると、食事の際、娘さんは通常一分間に120回噛むと観察されています。ところがその日、娘は90回しか噛みませんでした。なんと25%も減っている。

ここまでではいいのです。これくらいの観察力をすべてのお母さんに持っていただけると大変ありがたい話です。しかし、お母さんは続けて、「あれっ、どうしたの。食欲ないの? 具合悪い? ムカムカする感じ? そう言えばちょっと顔色も青いわね」と言うわけです。で、娘さんはふと、「そういえば、ちょっと、今日、食欲ないな」と気づくわけです。そして、「言われてみれば、確かにムカムカする。ここに食べ物が入っていく感じ」。食べているのですから、ノドに食べ物が入っていく感じは当然あるでしょう。

「今日の夕ご飯はあなたの好物を並べたつもりなんだけど・・・おいしくないかしら?」とかが言って、お母さんも食べてみて、「いつもと変わらないね。味じゃないわね。何かあったの? 学校でお友達に何か言われたの?」。それは何か言われてますよね。すると、娘さんは考え始めるわけです。「そういえば、A子ちゃんに何か言われたな。それはあまりいいことじゃなかった」「そう。先生からも何か言われた?」「うん、今日、指された。そのときうまく答えられなかった。怒られたわけじゃないけど、ちょっと嫌みを言われた」。それくらいのことは、何かしらあるでしょう。

さらにお母さんは続けます。「あっ、そうか。あと一週間で期末試験だよ。今度、自信ないの? あなた、もう中3で、高校受験もあるし、期末試験くらいで緊張してご飯が食べられなくなっちゃって、あなたどうするの? 困ったわねー」。

お母さんが言っていることは、ある意味で事実です。期末試験が来週から始まるのも、そのこ

とがちょっと不安なもの。

「今からこんなふうになってたら、本当の高校受験のときにどうするの？ ゲエゲエ吐いて、試験に行けなくなっちゃったら。勉強も大事だけど、何よりも体調管理が大事よ。今からこんなじゃ、大学受験になると、もっと大変になるのよ。ストレスで食事がノドを通らないようじゃ、いったいどうするの？ でも、あまり焦らないほうがいいわね。ご飯なんて食べなくなったら食べなくてもいいのよ。具合が悪いときは、バツと吐いちゃえば楽になるから」とか言ってるうちに、娘さんはどんどん不安を高めていきます。「確かにそうだ。高校受験どうしよう。大学受験どうしよう。今からこんなでどうしよう。吐いちゃえばいい？」「うん」。娘さんは、トイレに駆け込んで、今まで食べていたものを吐いてしまう。



いつもだったら120回噛む娘が、その日に限って90回しか噛んでいなかったという、お母さんの観察は正しかった。でも、その観察に「食欲がない」「ムカムカする」「受験ストレス」などという言葉、意味づけを加えたわけです。観察は正しかったけれども、そこにあてられた言葉が本当に正しかったのかどうかはわかりません。

もしかしたら、娘さんにはちょっと気になる男の子がいて、「電車に乗っていたときの彼、素敵だったなあ」と物思いにふけていて、噛む回数が90回になっていたのかもしれない。しかし、そこにお母さんがどんどん問題に関する言葉を与えていった。もしその娘さんが、お母さんの言葉に対して、「それ違うよ。今、ちょっと彼のことで考えててね。おいしいよ、お母さん。ありがとうね」と返していたら、トイレに駆け込んで吐くということはないわけです。

問題というのは、このようにしばしばつくられるものです。最初は何もなかったところに、少なくとも問題と言わなくてよかったものに「問題」という名前をつけ、その感覚が共有されていくうちに、どんどん「問題」は大きくなり、本当の「問題」をつくってしまったのです。

(森・黒沢のワークショップで学ぶ「解決志向ブリーフセラピー」ほんの森出版 より)

私たちは知らず知らずのうちに、何気ない言葉で子どもたちに影響を与えています。そんなに疲れていないのに、「忙しいでしょ！ 疲れてる？ 疲れてない？」と何度も声をかけているうちに元気をなくしてしまうこともあれば、「受験勉強大変ねえ」と何度も声をかけているうちに「受験は大変だ」と刷り込まれていくこともあるかも知れません。

部活や習い事、生徒会活動などで、忙しい生活を送っているにもかかわらず、その忙しさを楽しんでいるかのように見える子どもがいる一方で、時間は十分あるのに、やるべきことがやれずに精神的に追いつめられてしまう子もいます。この違いも、私たち大人のかかわり方が、少なからず影響を与えているのかもわかりません。

子どもは大人がこだわることにこだわります。気にすることが気になります。紹介した事例では「マイナス」の影響を与える言葉が取り上げられていましたが、どうせ影響を与えるのなら「プラス」の影響を与える言葉を積み上げましょう。「プラスの言葉」とは、解決に向けて役立つものです。問題や原因ばかりに目をやるよりも、解決の方法を考える方が有用ということもあります。

私自身、日々、子どもたちと接することのできる喜びとともに、その難しさを感じています。さらに一つ一つの言葉を大切にしていきたいと思います。

## 2・3月の主な行事予定です

2月 20日 (木)	2年進路・修学旅行説明会
21日 (金)	入学説明会 (保護者対象)
25日 (火)	3年学年末テスト
25日 (火) ~ 27日 (木)	1・2年学年末テスト
27日 (木)	中学校生活説明会 (6年児童対象)



3月 3日 (火)	3年奉仕作業	17日 (火)	県立高校合格発表
5日 (木)	3年給食最終日	24日 (火)	大掃除、給食最終日
6日 (金)	卒業式 (給食なし)	25日 (水)	修了式、離任式
10日 (火)	県立高校後期選抜		

毎日のお知らせや、子どもたちの学校での様子をホームページに掲載していますのでご覧ください。  
ホームページアドレス <http://ednet.res-edu.ed.jp/c-minamigaoka/>